

未来へ躍動する桃太郎のまち岡山

岡山市長(岡山県)

大森雅夫



はじめに

岡山市は、中四国の広域交通結節点に位置する政令指定都市として、約790km²という広大な市域の中に、都心、市街地、田園、中山間など、多様性に富む地域を有している。災害が少なく温暖で恵まれた自然環境と高次の都市機能を同時に享受できる「住みやすさ」が魅力であり、それにさらに磨きをかけるまちづくりに取り組んでいる。

都市としての歴史は古く、大和政権と拮抗した一大勢力と言われる古代吉備国の時代から、瀬戸内海に面する地の利を生かして、水陸交通の要衝として栄えた。

戦国時代末期には、戦国大名として名高い宇喜多直家・秀家父子により、岡山城と城下町の整備が進

められ、岡山発展の礎が築かれた。

江戸時代には、岡山藩31万5千石が誕生し、名君池田光政・綱政父子により、藩学校の設立をはじめ、日本三名園の一つに数えられる岡山後楽園の築造や大規模な新田開発など、都市の骨格が形成された。

街道と城下町、歴史・文化遺産

古代山陽道は、大和朝廷と九州太宰府を結ぶ東西幹線道として重要な役割を果たしていた。

秀家は、城下町の整備とともに陸上交通路の整備にも力を注ぎ、旭川への架橋により山陽道の道筋を城下中心部に引き込むとともに、沿道に領内各地から有力商人を呼び寄せ、にぎやかで活気ある

商人町を形成した。これが、県下最大の商業核となる表町商店街の始まりである。

併せて、城下町を中心に県北の津山に向けては旭川沿いに津山往来、城下町から西方に向けては海岸寄りに延びる庭瀬往来、その他下津井往来、牛窓往来、倉敷往来など多くの街道が放射状に整備され、城下町の発展を支えた。

人やモノ、情報の往来、文化の交流の場となった街道は、時代とともに道筋や姿を変えつつも、沿道に江戸の歴史・文化を伝える陣屋町、門前町、宿場町が形成され、当時をしのばせる街並みや多くの歴史・文化遺産がはぐくまれた。特に、山陽道周辺で本市と総社市にまたがる吉備路一帯は、悠久の時を超え、古代吉備国の繁栄を



岡山城天守閣と後楽園

今に伝える造山古墳などの多くの遺跡群や、「桃太郎・温羅伝説」など古代ロマンをかき立てる吉備津神社・吉備津彦神社、古代の山城・鬼ノ城など、歴史・文化遺産の宝庫である。

国指定史跡数は政令指定都市の中で京都市に次いで2番目に多



津山往来沿道の和洋混在の歴史的街並み

て建てられた和風・擬洋風建築などが独特の雰囲気、魅力を醸し出している。また、庭瀬往来沿道では庭瀬・撫川地区の歴史的街並みが陣

く、これら歴史・文化遺産を物語で紡ぐ新たな魅力を創出し、広くその魅力を発信することが求められている。

歴史・文化遺産を生かしたまちづくり

街道沿いや後楽園周辺では、先人のたゆまぬ努力により歴史的街並みや風致景観など、各時代の歴史が織りなす地域のシンボリック景観が守られてきた。

代表的な街並みとしては、津山往来沿道では後楽園の門前でぎわった出石町地区があり、世界的な画家国吉康雄の生誕地としても知られる。都心でありながら戦災を免れ、明治から昭和初期にかけて

屋町の面影を色濃く残している。

さらに、街道ではないが、「西大寺会陽・はだかまつり」で有名な西大寺観音院参道沿いにある西洋風建築がレトロな魅力を醸し出しており、数々の映画・ドラマのロケ地となったことで知られる。

しかしながら、こうした歴史的街並みは、家屋の荒廃や都市開発の進展等による喪失が懸念されており、これら3地区では、平成17年から地域住民が、建物の形態・意匠など一定のルールをまちづくり協定に定め、修景費助成制度も活用しながら、官民連携により、歴史的街並みの保全・再生活動に取り組んでいる。

また、街道や城下町の歴史・文化の由来等を現地で紹介する看板「岡山歴史のまちしるべ」は、統一したデザインで整備され、街なかを歩いて楽しむ際の新たな魅力となっている。

さらに、岡山城・岡山後楽園を中心に美術館、博物館など文化施設が集積する岡山カルチャーゾーンでは、近年国内外から来訪者が増加しており、施設間の連携イベントの充実等により回遊性を高め

る取り組みを進めるとともに、吉備路では、歴史・文化資源を収集・顕彰し、さまざまなツールを通じてその魅力を広く国内外に発信する取り組みを進めているところである。今後、周辺都市とも連携しながら、観光資源をさらにブラッシュアップしていきたい。

最後に、本市は、岡山固有の歴史・文化に由来する「桃太郎」を新

たな都市づくりの象徴としており、「未来へ躍動する桃太郎のまち岡山」を基本目標としたまちづくりを進めている。

先人たちが築き上げてきた多くの歴史・文化遺産をしっかりと受け継ぎ、まちづくりに生かすとともに、新たな魅力を創造・発信し、活力と躍動感あふれる都市づくりに邁進してまいりたい。

山陽道・津山往来・庭瀬往来

一口メモ

地域の歴史文化をはぐくんできた街道

古から、人や物資の輸送、文化の交流の場となった「道」は、時代とともに姿、形を変えながらも沿道には数多くの歴史文化遺産が残されている。

山陽道は、古代に都と九州太宰府を結ぶ官道として整備され、近世では宿場町が形成され、城下町整備により道筋は城下に引き込まれ、沿道は商人町としてぎわった。



津山往来（岡山—金川—建部—津山）は、岡山城下から津山城下に至る、備前と美作を結ぶ重要な道であった。庭瀬往来（岡山—庭瀬）は、岡山城下を起点に備中を横断し備後福山に至る鴨方往来のうち、岡山から庭瀬に至る街道であり、庭瀬は陣屋町として栄えた。

企画協力：全国街道交流会議「街道交流首長会」